

印西大師 番外 小林新田・東福寺

- 1 名称 (No.109/218)〔手引鏡：東福寺〕〔資料館：東福寺〕
- 2 場所 印西市本埜小林69 七区コミュニティセンター
小林新田・観音堂から道程約850m（直線で約150mであるが国道356号線は車が多く歩道がない。一旦北小学校まで戻る。）
GPS座標 35.8329356422966, 140.20160519957705
- 3 由緒 天台宗 青柳山 東福寺
（埜原村）小林新田字徒越にあり天台にして瀧水寺末なり 大日如来を本尊とす 由緒不詳 檀徒35人（印旛郡誌）
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。
- 5 境内 大師堂のまわりは石造物や水神社、七区コミセンなどがある。
- 6 写真 (2023.07撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



二十三夜搭など



七区コミセンと水神社



日支事変並びに大東亜戦出征者

7 情報

(1) 青柳山東福寺再建記念碑

東福寺由来 抑々青柳山東福寺は徳川三代将軍家光公の治世慶安二丑年と推定 名主青柳源右エ門が勧請元本郷村滝雲林山滝水寺末ととして建立せられたと云傳えらる 安政の頃火災に逢い半焼したが再建され孝實師（明治四年寂）を最後として無住寺となる 偶々昭和四十六年八月十六日自動車事故に依り本堂倒潰 本尊阿弥陀如来の尊像大破により村人一同協議の上修復する事に決定 大修理を行い原形に復し昭和四十七年八月五日本堂落成式を挙行 翌六日吉祥日をトし盛大に入佛式を執行 常に交通安全と村人一同の繁栄を念願とする守本尊として之を後世に伝えるものである 昭和五十年十月二十日（以上、「印西市調査報告書・本埜」より）

(2) 安政地震地蔵（地蔵菩薩兼道標）

高さが235センチと大きくて存在感のあるお地蔵さんが国道356号線の分かれ道に立っています。丸彫りで堂々としたもので道標も兼ねているこの地蔵菩薩は享保6年（1721）の造立。裏面に刻まれた文字から安政2年（1855）の大地震で倒壊、その後修復し道路改修のため昭和41年（1966）10月に移動したことが分かります。地蔵菩薩の左側に「左 てうし なりた道」、右側に「右 さくら道 願主 浄安」、台座に「江戸みち」と刻まれています。また、地蔵



脇にもう一基慶応4年（1868）造立の道標がありました。道標は、正確な地図の無い当時の旅をする者にとって大変重要なものであったといえます。蛇足ですが「評伝 赤松宗旦 彩流社」によると、この安政の大地震が起こった10月2日の午後10時頃、利根川図志の著者赤松宗旦は江戸の出版社から布川に帰った直後だったそうです。もし、江戸出発が1日遅れていたら版木等全て灰になってしまったと赤松は後日述懐していたそうです。なお、布川や布佐では家が多数損壊したそうですので対岸に位置している小林に立っていた地蔵が倒壊したのは当然といえます。（印西ウェットランドガイド阿部純「谷津田だより」）